

表 - 1 今後の河川水質管理の指標項目（案）

河川水質管理の視点	河川水質の確保すべき機能		確保すべき機能を表す項目	河川水質管理の指標項目の分類				今後の河川水質管理の指標項目[案] (全国共通の項目)		
				住民との協働に優れた項目	感覚指標に係る水質項目	機能に関して指標性のある水質項目	洪水時調査の必要な項目	住民との協働による測定項目	河川等管理者による測定項目	
人と河川の豊かなふれあいの確保	快適性	水域全体のきれいさ	ゴミの量	ゴミの量	-	-	-	ゴミの量	SS、濁度、[BOD]	
		水の透明感 [水のきれいさ]	透視度、SS、濁度、水の色、 [BOD]、[COD]、泡、油、	透視度、水の色、 ⁵ SS、 ⁵ 濁度、泡、油、[⁴ COD]	-	透視度、SS、濁度 [BOD]	-			
		川に入ったときの 快適性	川底の感触	川底の感触、[SS]、[濁度]、 [BOD]、[COD]、 [T-N]、[T-P]、 [河床付着物のクロロフィルa]	川底の感触、 [⁴ COD]	[BOD]、 [T-N]、[T-P]、 [河床付着物のクロロ フィルa]	[SS]、[濁度]			-
			水に触れた感覚	水温、粘性、クロロフィルa	水温、 ⁵ クロロフィルa	-	水温、粘性			-
	臭い	水の臭い、臭気、[臭気度]、 [DO]、[BOD]、[COD]	水の臭い、臭気 [⁴ DO]、[⁴ COD]	[DO]、 [BOD]	[臭気度]	-				
安全性	衛生学的安全性 [触れる、 誤飲の安全性]	糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類、環境ホルモン	-	-	糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	-	糞便性大腸菌群数			
豊かな生態系の確保	生息、生育、 繁殖	呼吸	DO、SS、[BOD]、[COD]	⁴ DO、[⁴ COD]	-	DO、[BOD]	DO、SS	⁴ DO、[⁴ COD]	DO、SS、[BOD]、	
		毒性	NH ₄ -N、Zn、ダイオキシン類、 環境ホルモン	⁴ NH ₄ -N	-	NH ₄ -N、Zn、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	NH ₄ -N	⁴ NH ₄ -N	NH ₄ -N	
		生物の生息	水生生物の生息、[水温]、[pH]、 [BOD]、[COD]、 [T-N]、[T-P]、 [水辺の植生]、[鳥類]、[魚類]、[昆虫]	水生生物の生息、 [水温]、[⁴ pH]、 [⁴ COD]、[水辺の植生]、 [鳥類]、[魚類]、[昆虫]	-	水生生物の生息、 [BOD]、[T-N]、[T-P]	-	⁶ 水生生物の生息、 [水温]、[⁴ pH]、 [⁴ COD]	⁶ 水生生物の生息、 [pH]、[BOD]、 [T-N]、[T-P]	
利用しやすい 水質の確保	安全性	毒性 [消毒副生成物 含む]	[TOC]、[BOD]、[COD]、[SS]、 トリハロメタン生成能[NH ₄ -N]、 健康項目	-	-	[TOC]、[BOD]、[COD]、 [SS]、トリハロメタン生成能、 [NH ₄ -N]、健康項目	[TOC]、 [トリハロメタン生成能]、 [NH ₄ -N]	トリハロメタン生成能、 [NH ₄ -N]、[TOC]		
		病原性微生物	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	-	-	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	糞便性大腸菌群数		
	快適性	臭い	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、[T-N]、[T-P]	-	-	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、[T-N]、[T-P]	2-MIB、ジオスミン	2-MIB、ジオスミン		
		味覚	異臭味、[TOC]、[COD]	-	-	[TOC]、[COD]	[TOC]、[COD]	pH、SS、濁度、NH ₄ -N		
維持管理性	浄水処理の 維持管理性	pH、SS、濁度、NH ₄ -N、 植物プランクトン	-	-	pH、SS、濁度、NH ₄ -N、 植物プランクトン	pH、SS、濁度、NH ₄ -N				
下流域や滞留 水域に影響の 少ない水質の 確保	下流域の富栄養化や閉鎖性水域[ダ ム、湖沼、湾]の富栄養化への影響 が少ない水質レベルであること。		[T-N]、[T-P]、 クロロフィルa、[¹ ケイ酸]、 [³ フルボ酸]、[Fe]、 [無機N]、[無機P]、[COD]	[⁴ PO ₄]	-	[T-N]、[T-P]、 クロロフィルa、 [無機N]、[無機P]、[COD]、 [¹ ケイ酸]、[³ フルボ酸]、 [Fe]	[T-N]、[T-P]	[⁴ PO ₄]	[T-N]、[T-P]	
河川の基本的特徴の表現			水温、流量、流速、水位 BOD、COD、 SS、濁度、pH、EC 水生生物の生息、[² フレッシュ度]	水温、 ⁴ COD、 ⁴ pH、 [² フレッシュ度]	-	BOD、SS、濁度、pH、EC 流量、流速、水位 水生生物の生息	SS、濁度	水温、 ⁴ pH、 ⁴ COD	BOD、SS、濁度、pH、 流量	

*1今後の調査・研究が必要である項目

*2この項目は情報提供のみに限られる。「フレッシュ度」は仮称であり、今後変更される可能性がある。

*3分析方法も含め、今後の調査・研究が必要である項目

*4バック方式などの簡易な方法で測定を行うことができる。

*5ろ紙吸光法（簡便な方法）で測定を行うことができる。

*6住民との協働による場合は、簡易調査方法で実施し、河川等管理者による場合は、スコア法で実施する。

上記の視点に対して、水質以外の項目として川への近づき易さや、河道形態などが影響してくる。そのため、水質管理を行う上では、これらを考慮して検討を行う必要がある。
現在国土交通省で設置している水質自動監視装置では、水温、pH、DO、濁度、COD、NH₄-N、T-N、T-P等の測定を行っている。また、水位観測所において水位の観測を行っている。

BODは湖沼ではCODとする。都市河川では必要に応じてC-BODを追加してもよい。

流量は湖沼では水位とする。

表の見方

・ []内の指標項目は、今後のデータの蓄積を行い、河川水質管理の指標項目として継続すべきか、あるいは他の項目で代替すべきかを判断するために、調査を行う項目

・ 太字は水質管理上重点的に評価を行う項目[評価項目]

・ 下線は特に指標性の高い項目を表す